

ネコ保護施設設立願う

3万人目標 市内で署名活動

小さな命を助けたい。盛岡市菜園2丁目の里親募集型保護ネコカフェ・もりねこ（工藤幸枝店長）は24日、同市中心部で動物愛護センター設立を求める署名活動を行った。市保健所が引き取った動物を保護する県施設はネコを受け入れる設備が整っておらず、野良猫や殺処分が後を絶たない一因となっている。同カフェは市民ボランティアらと協力して3万人の署名を集め、10月招集予定の市議会に請願する考えだ。



動物愛護センター設立に向けた署名活動を行う「もりねこ」の工藤幸枝店長（右）ら。9月までに3万人を目標に据える=24日、盛岡市大通

市議会へ請願 今秋

「殺処分される猫ちゃん、わんちゃんを助けましょう」。同市大通のクロステラス盛岡前で、同カフェの店員

やボランティアら9人が署名を呼び掛けた。強い日差しの中、362人の署名を集めた。市保健所は、イヌやネコの飼養管理を同市三ツ割の県央保健所犬・ねこ保護センターに委託している。だが同センターは狂犬病予防法に基づき設置された旧犬抑留所でネコの受け入れを想定しておら

ず、狭い部屋にケージを置いただけだ。1969年10月に建設された施設だけに老朽化も深刻で、冷暖房が不十分のため冬は寒さで死ぬネコもいる。少子高齢化が進む中、飼い主の死亡などで飼えなくなったネコなどを引き取って保護し、去勢・避妊手術や里親探しを行う施設が

あれば、野良猫や殺処分されるネコを減らせる。しかし同カフェなど民間やボランティアの活動には限界があり、同カフェは官民力を合わせた取り組みを訴えて今年3日に署名活動を始めた。9月15日まで続けるが、3万人の目標に対し現時点で集まったのは約2300人。工藤店長（29）は「劣悪な環



県央保健所犬・ねこ保護センターで保護されているネコ。施設の老朽化もあり、狭く劣悪な設備環境で暮らす

ネコ殺処分1088匹 県内昨年度

県内では県央、中部奥州など9保健所管内にイヌやネコを保護する犬・ねこ保護センター（旧犬抑留所）などの県施設がある。

2014年度はイヌ425匹（08年度比680匹減）、ネコ1276匹（同1292匹減）を受け入れ、このうち飼い主への返

処分したのはイヌ105匹（同615匹減）、ネコ1088匹（同1340匹減）だった。

13年に動物愛護・管理関連法が改正したことで引き取りを拒否できなくなり、保護数が大幅に減少。県に

盛岡市は10年度から「地域ねこ活動」を開き、地域住民が協力してネコの情報収集や衛生に配慮した世話に取り組み活動を推進。不妊手術費を市が助成するなど、殺処分されるネコを減らす取り組みを進めている。

盛岡市も設立を検討しているが、建設・維持費の確保や場所の選定が課題。市保健所の佐藤圭生活衛生課長は「市民ニーズに対応するためにも他県の状況を研究し、検討を進めたい」と語る。署名の問い合わせは同カフェ（019・613・7773）へ。